

がんばろう！東北

お知らせ

平成23年12月27日
東北地方整備局

港湾について災害査定が完了。本格的な復旧を推進してまいります。

東日本大震災で東北地方の港湾施設は甚大な被災を受けたところですが、今般、被災した港湾関係施設の全てについて災害査定が完了しました。引き続き、現地の災害復旧事業を迅速に進め、各港の産業・物流復興プランに基づき精力的に復旧を推進してまいります。

主な災害復旧事業の状況は以下のとおりです。

- 八戸港では、北防波堤の復旧により港湾機能を暫定的に回復させました。引き続き、地元産業や物流の復興を支える港湾機能の回復に向け、本格復旧を進めてまいります。
- 仙台塩釜港では、コンテナターミナルの暫定再開により、来年1月22日に北米航路が再開されることになりました。引き続き、港湾機能の回復に向け、本格復旧を進めてまいります。
- 釜石港、大船渡港では、湾口防波堤の復旧方針を確定し、本格的な復旧に取りかかります。

〔参考資料〕

- 資料－1 東日本大震災における港湾関係の災害復旧規模
- 資料－2 東北地方の港湾施設の復旧状況について
- 資料－3 東北地方の港湾貨物の回復状況について

<発表記者會>宮城県政記者會、東北電力記者會、東北専門記者會

【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 (電話 022-716-0010)

港湾空港企画官	原田 卓三
港湾計画課長	中嶋 義全
港湾事業企画課長	藤田 隆

○東日本大震災における港湾関係の災害復旧規模

都道府県名	災害復旧規模	
	件数	金額※（億円）
青森県	35	298
岩手県	199	1,284
宮城県	305	988
福島県	150	741
【東北地方整備局管内計】	689	3,311

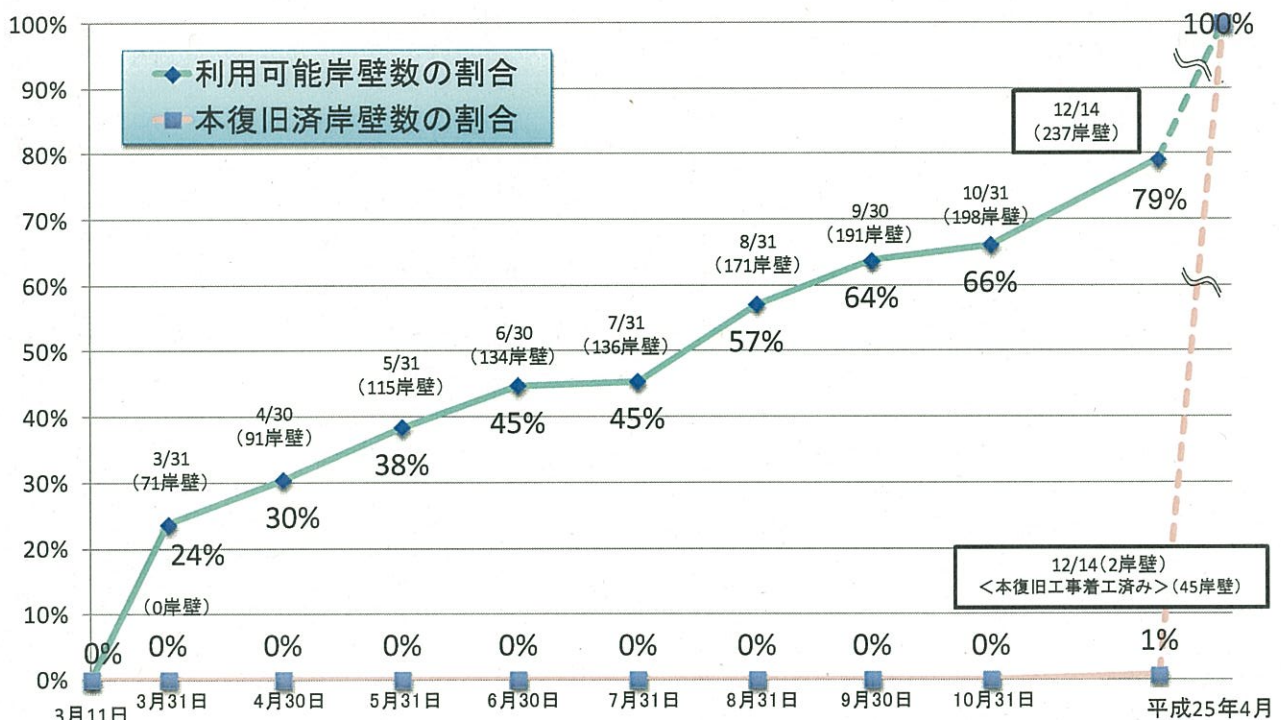
※事業実施段階において変更があり得る。

東北地方の港湾施設の復旧状況について

【利用可能岸壁の推移】

○応急復旧工事等により、八戸港～小名浜港の水深4.5m以深の公共岸壁299岸壁のうち、237岸壁（全体の約8割）が利用可能な状況となった。

○概ね2年以内での本格復旧を目指し、工事を進めている。



※利用可能岸壁数は、暫定利用可能岸壁数と本復旧済岸壁数の合計。
暫定利用可能岸壁は、利用にあたって吃水制限や上載荷重制限がかかっている。

※東北地方整備局調べ

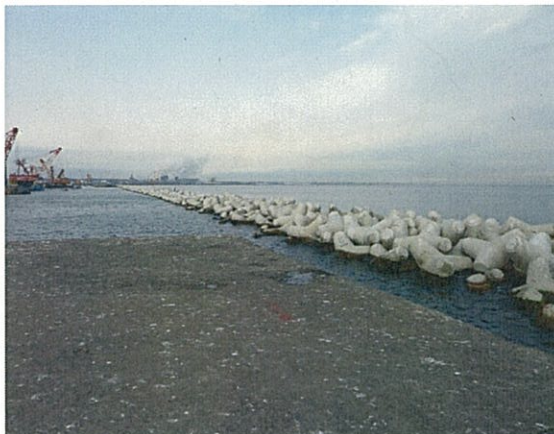
【港湾施設の復旧状況】

○八戸港防波堤の被災・復旧状況

被災状況（平成 23 年 3 月 12 日時点）



復旧状況（平成 23 年 12 月 22 日時点）



○仙台塩釜港コンテナターミナルの被災・復旧状況

被災状況（平成 23 年 4 月 18 日時点）



復旧状況（平成 23 年 12 月 16 日時点）



【釜石港、大船渡港の湾口防波堤の復旧方針】

○東日本大震災により被災した釜石港及び大船渡港の湾口防波堤について、復旧方針を以下の通り確定した。

- ・今回の被災原因は、防波堤の高さを大幅に上回る津波が来襲したため、防波堤を境に極端に大きな水位差が発生し、ケーソンが港内側に押されたことが主な原因で、港内側の基礎マウンドが越流により洗掘されたこと等も影響し、ケーソンが滑落したものと考えられる。
- ・復旧に際しては、中央防災会議専門部会の提言等を踏まえ、「発生頻度の高い津波（明治三陸地震津波）」を対象とするとともに、設計津波を超える高さの津波に対しても減災効果を発揮する「粘り強い構造」とする。
- ・「粘り強い構造」については、港内側の基礎マウンドのかさ上げ等により洗掘を防止する工法を採用する。なお、今後の水理実験等により効果を検証し、必要な見直しを行う。

湾口防波堤の復旧方針の概要

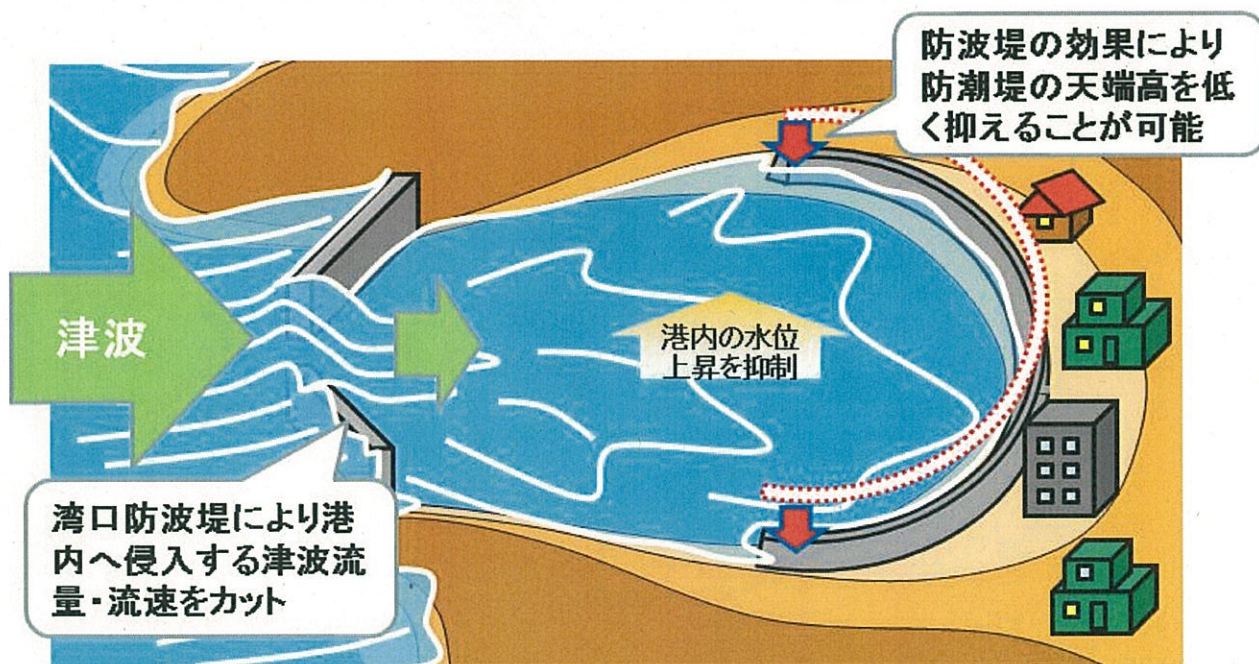
港名	設計津波		復旧費用	復旧期間
	既定計画	復旧計画		
釜石港	明治三陸地震津波 (津波高：7.8m)	明治三陸地震津波 (津波高：7.8m)	約490億円	5年間 (H23～H27)
大船渡港	昭和チリ地震津波 (津波高：6.0m)	明治三陸地震津波 (津波高：11.2m)	約200億円	5年間 (H23～H27)

○設計津波に対しては、湾口防波堤と防潮堤等の効果的な組み合わせにより、港湾と市街地を防御する。各々の施設高（天端高）は、建設費の合計が最小となる以下の組み合わせで設定した。

湾口防波堤の施設高（天端高）の設定

港名	既設計画		復旧計画	
	湾口防波堤の施設高	防潮堤等の施設高	湾口防波堤の施設高	防潮堤等の施設高
釜石港	T.P. 5.1m (D.L. 6.0m)	T.P. 4.0~6.1m	T.P. 5.1m (D.L. 6.0m)	T.P. 6.1m
大船渡港	T.P. 4.2m (D.L. 5.1m)	T.P. 3.0~3.5m	T.P. 10.4m (D.L. 11.3m)	T.P. 7.2m

湾口防波堤と防潮堤の組み合わせによる防護イメージ

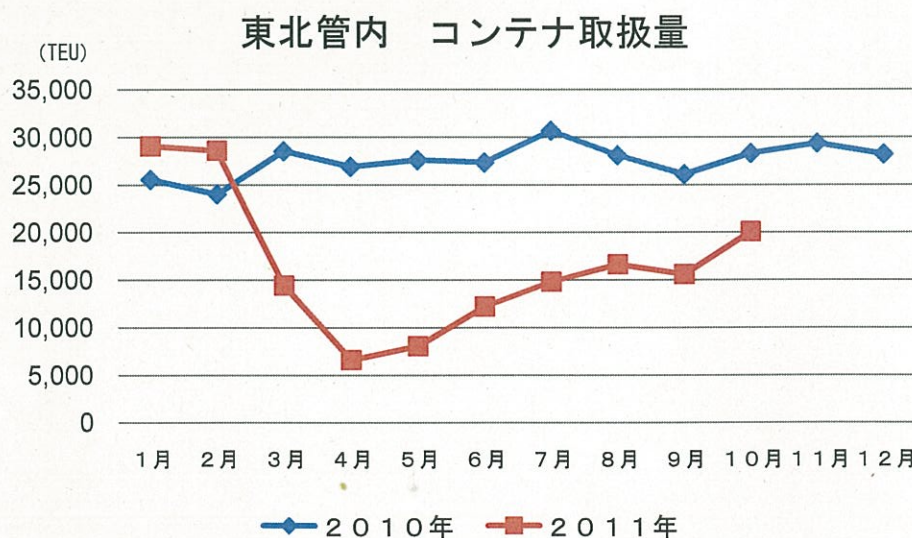
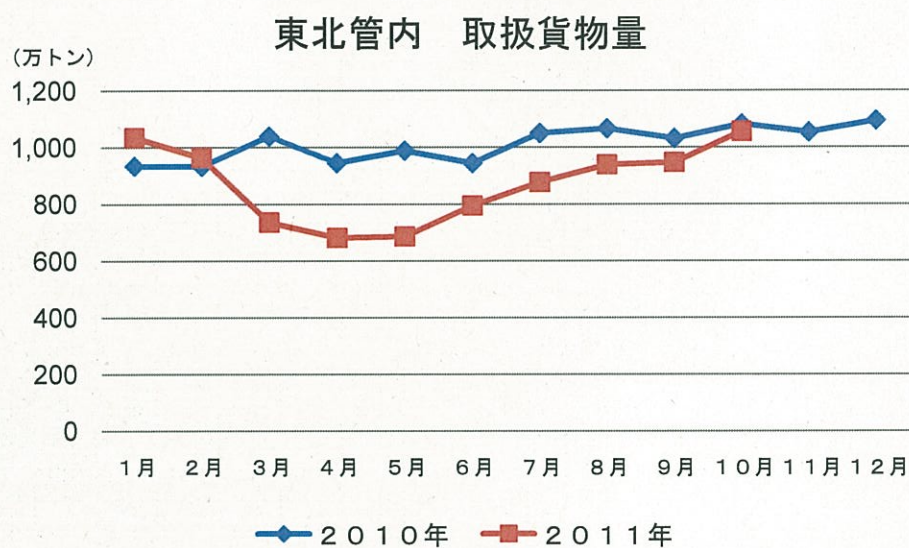


- ・釜石港では、既設の湾口防波堤と同じ施設高で復旧し、防潮堤等の施設高を一部かさ上げする方法とした。
- ・大船渡港では、湾の奥行きが長く、防護すべき海岸線の延長が長いため、湾口防波堤の施設高を高くし、防潮堤等の施設高のかさ上げを抑える方法とした。

東北地方の港湾貨物の回復状況について

【概要】

- ・ 震災のあった3月の港湾取扱貨物量は、対前年比71%に低下。その後、港湾利用企業の生産活動の再開や港湾施設の復旧が進み、10月の港湾取扱貨物量は対前年と同水準にまで回復した。
- ・ 特に、コンテナ取扱量は、被災港湾すべてのコンテナ航路が停止した上、荷役機械等の復旧に時間を要したため、震災直後の4月には、対前年比25%に低下。その後、順次、コンテナ航路が再開し、10月のコンテナ取扱量は、対前年比71%まで回復した。



注) 港湾管理者からの速報値による

【主な被災港湾におけるコンテナ貨物の動向】

○仙台塩釜港

（航路再開状況）

- ・ 6月8日に、内航フィーダーコンテナ航路を再開。
 - ・ 9月30日に、外貿コンテナ航路（韓国、中国）を再開。
- ※来年1月22日に、北米向けの外貿コンテナ航路を再開予定。

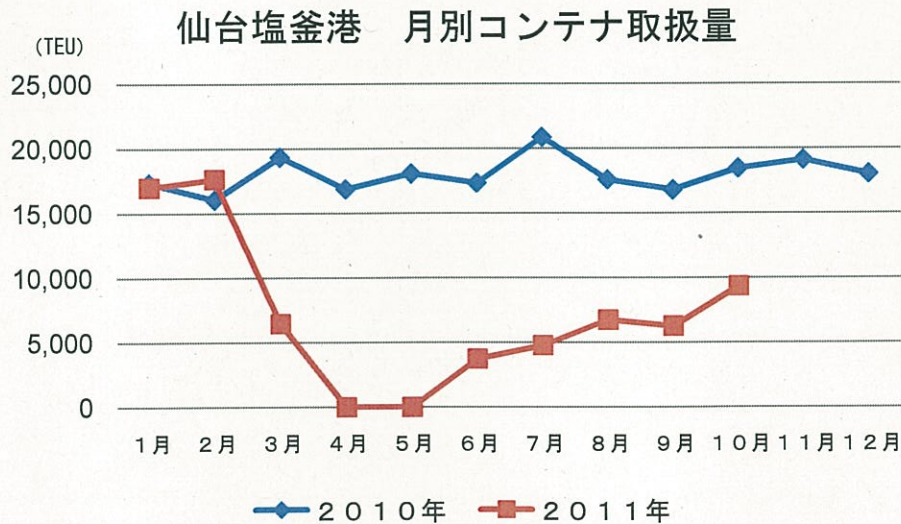
荷役状況（平成23年6月8日時点）



荷役状況（平成23年9月30日時点）



（コンテナ取扱量の推移）



注) 港湾管理者からの速報値による

○八戸港

(航路回復状況)

- ・ 4月23日に、内航フィーダーコンテナ航路を再開。
- ・ 5月19日に、外貿コンテナ航路（韓国、中国）を再開。
- ・ 6月20日に、外貿コンテナ航路（東南アジア）を再開。
- ・ 12月16日に、外貿コンテナ航路（韓国、中国）が震災前と同じ週2便に回復。

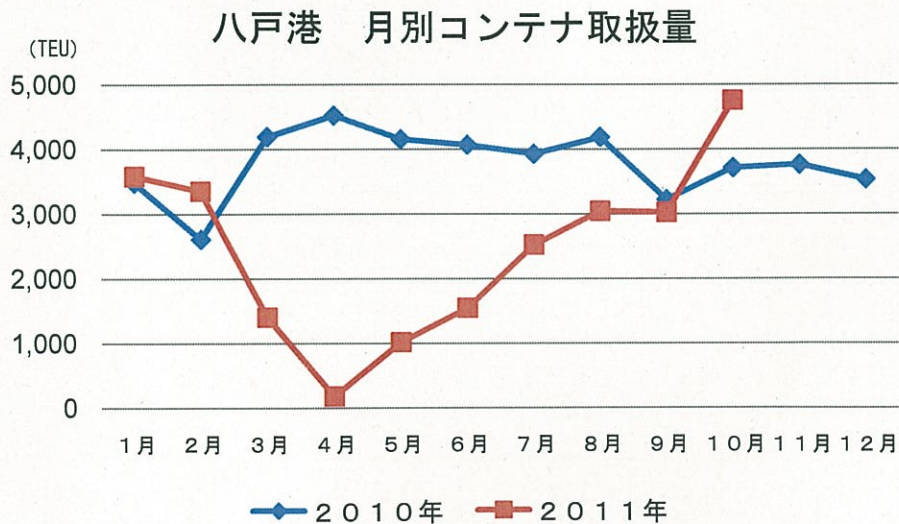
荷役状況（平成23年4月23日時点）



荷役状況（平成23年5月19日時点）



(コンテナ取扱量の推移)



注) 港湾管理者からの速報値による